

第一回委員会意見に対する対応

	指 摘	対 応
物質循環の基本的考え方について	・エスチュアリー循環と鉛直循環の関係、海底の有機物の蓄積と酸素消費の関係、外海水の流入、砂の供給変化等についてきめの細かい整理が必要である。	三河湾における物質循環の理解は本検討で基幹となる部分であり、ご指摘を踏まえ、検討を進めながら随時加筆修正していく。
現地調査計画について	・POCが抜けているので追加しておくこと。	夏季調査は記載漏れ。追記する。
	・光量子計で海中(海底)の光も測定しておくこと。	秋調査から追加。
	・知多湾の奥にもアサリが多い場所がある。追加できないか。	秋季にマクロベントス調査を追加。
	・ピコ・ナノプランクトンには混合栄養性のものが存在する。どう取り扱っているのか。	独立・従属栄養の査定基準は、観察時に細胞に光合成色素(クロロフィルaや補助色素)があるかないかで判断している。例えば渦鞭毛藻の多くは混合栄養と考えられているが、それを把握することは難しい。今後の課題としたい。
	・ピコ・ナノプランクトンは成層の上下で違うと思う。成層下部のサンプルも欲しい。	今後の課題としたい。
	・ピコ・ナノプランクトンは炭素換算することを前提に細胞の大きさ、量(ボリューム)を押さえておくこと。	st.1,4のみで対応。
	・小型のベントスは柱状採泥して、層別に分析できないか。	表層の泥が散逸ないようにダイバーによる柱状採泥を実施している。層別の分析は今後の課題とした
実証実験について	・ナノベントスも従属性・独立性を区分しておくこと。	今後の課題としたい。
	・バクテリアも測定してもらいたい。	st.1,4のみで対応。
	・難分解有機物の実態を検討すべきである。	まずは既存資料の解析で対応する。
モデル解析について	・水起源別の生産実験は、生産速度だけでなく、栄養塩の回転速度(転換効率)も重要。	実験計画で考慮する。
	・水起源別の生産だけでなく、上位の動物群集への移行を踏まえた捕食実験も必要ではないか。	ナノ・ピコプランクトンの調査結果を見ながら実験計画を検討したい。
	・気候変動として、水温だけでなく、気温や風を考慮したモデルを考えてもらいたい。	統括WGと連携をとってモデル解析に対して要望する。
	・外海水のデータが使用できる年を現況再現年として検討できないか。	
	・改善施策の順番や組み合わせを色々変えて検討できるシミュレーションを要望すべき。	
・ノリの色落ちや島嶼部の貧栄養化の解析が出来るモデルにしたい。		
・将来出てくる開発事業との整合性も検討対象としてもらいたい。		